

## 「サンガーデン鞍手」開設1周年を迎えて ～スタッフの声～

- 1 過酷な労働環境の中、一年間本当にご苦労様でした（総合施設長／長谷川正人）
- 2 スタッフのひたむきな努力があってこそ（ゆたかの里施設長／福原英明）
- 3 入所施設の役割の大きさを感じる（法人事務長／H. S）
- 4 友達のような雰囲気の施設に（デイゆたか施設長／T. D）
- 5 みんなと何しようかな？（ゆたか工房施設長／K. M）
- 6 受容的態度で接してきた成果（主任支援員／M. T）
- 7 「これでよいのか」と不安な一年（看護師／Y. K）
- 8 一周年という道標は大きいか（支援員／H. S）
- 9 最強ペアが最弱ペアに?!（支援員／B. Y）
- 10 今後は入居者の生活の幅を拡げたい（ジョブコーチ／F. Y）
- 11 次のステップを見つけよう（支援員／S. C）
- 12 脱施設化でもサンガーデンはこのまま残っておかしくない（支援員／S. M）
- 13 宿直を重ねるたびに心に余裕が（支援員／Y. N）
- 14 問題には入居者第一で対処（支援員／N. M）
- 15 大雪の日に二日連続宿泊！（支援員／A. S）
- 16 第二の家庭になればいいなと思う（支援員／T. S）
- 17 明けの日はぐったり（支援員／Y. Y）
- 18 スタッフ一丸で頑張ってきた成果（支援員／S. T）
- 19 宿直、結構楽しんでた（支援員／A. Y）
- 20 信頼関係ができたから（支援員／Y. N）
- 21 和気あいあいとした生活を（支援員／N. M）
- 22 当施設が先進的であるところ（支援員／I. M）
- 23 何も起こらないでと祈り宿直（支援員／I. H）
- 24 行動障害も減少傾向（支援員／O. S）
- 25 より強い信頼関係を（支援員／U. R）
- 26 伸び伸び生活に驚き！（M. M）
- 27 自分の目指す福祉にぴったりの場所（支援員／I. T）
- 28 おいしい家庭料理を（栄養士／M. M）
- 29 ゆたかとサンガーデンの二重生活（ゆたかの里栄養士／H. T）
- 30 最高の笑顔を毎日見たい（事務員／K. T）
- 31 安らぎと向上心を（宿直専門員／S. T）
- 32 この仕事、とても勉強になります（宿直専門員／F. J）
- 33 バニラエッセンス（介助員／W. M）

- 34 おばちゃんと呼ばれて安心（介助員／A. H）
- 35 他で味わえない喜び（介助員／N. M）
- 36 新たなスタート（介助員／S. M）
- 37 おばちゃんパワーで（介助員／A. J）
- 38 入浴が済んだら紙芝居（介助員／K. S）
- 39 自分なりに成長したよ（調理員／S. Y）
- 40 優しい気遣いに感謝（調理員／Y. M）
- 41 一勤は今も不安（調理員／K. K）
- 42 心の栄養のお礼に（調理員／F. J）
- 43 みんなと一緒に五年十年（調理員／M. H）

## 1 過酷な労働環境の中、一年間本当にご苦労様でした（総合施設長／長谷川正人）

『サンガーデン鞍手』がオープンしてちょうど一年が経ちました。心の中にこみ上げてくるものがあります。それは「やった！」という喜びというより、「ありがとう」と静かに合掌したくなるような気持ちです。実は、この一年間のスタッフの苦労は並大抵ではありませんでした。私の理想の入所施設像のイメージは、入所施設での指導員としての経験七年と通所施設での管理者としての経験十二年を通じてできました。それは例えば、少人数の暮らしであり、日課を決めないこと、管理・規制をしないこと、職と住を分離すること、自閉症・行動障害のある人を優先して受け入れること等々。その理想を忠実に実践するということが、働くスタッフにとってどれほど大変なことかは、開設する前からある程度の予測はついていましたが、これほどとは…。毎朝、施設長室に宿直報告に来るスタッフ。目の下に隈ができ、肌は荒れ、表情は疲れ切っていました。私は、こんな状態が続けばスタッフはみんな必ず倒れてしまうと心配しました。月二回のスタッフ会議では、利用者に我慢やストレスをもたらさず入居者中心の生活を大切に維持しながら、一方でスタッフの勤務体制を改善していくという難題にスタッフ一丸となって取り組んできました。そうして現在、まだまだ十分ではありませんが、徐々に勤務体制は改善されてきました。この一年間、『サンガーデン鞍手』は、支援員の他にも、それぞれの職種の献身的なスタッフに支えられて困難を乗り越えてきました。愛情と優しさで日々の暮らしを支える宿直専門員と補助支援員の方々、入居者の方々の健康管理や病気や事故への迅速な判断と対応をしてくれた看護師、早朝から夜遅くまでの変則勤務の中、美味しい食事を提供してくれた栄養士と調理員、経理面や対外業務で法人を下支えしてくれている事務のスタッフ。過酷な労働環境の中でもスタッフの明るさ、仲の良さ、仕事に対する誠実さ、前向きさには本当に心が打たれました。野球チームを作ったり、川下り大会に参加したり、旅行に行ったり、飲み会をしたり…、スタッフ同士で楽しんでいる姿を見聞きするときが私自身本当に心和むときです。一年が経ち、施設もかなり落ち着きました。この一年間のような苦労は、これからはもう二度と味わうことはないと思います。大変だったけど、お互いに利用者から学び、スタッフ間で学び合えた、自らの成長の詰まった意義深い一年間でもあったと思います。スタッフの皆さんには、この一年本当にご苦労様と言いたいと思います。また、ご支援下さいましたご家族の皆さん、地域の皆さん、ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。

## 2 スタッフのひたむきな努力があつてこそ（ゆたかの里施設長／福原英明）

「もう一年になるの？」と本当に時間の経つ実感のない一年でした。もちろん忙しかったことは確かですが、スケジュールにしばられずに一日一日が同じ繰り返しでない新鮮さが時を感じさせない大きな理由だったのではないかと思います。各生活空間を独立した棟として建築し、たとえ施設であってもできる限りグループホームに近い入居者個々人の生活を大切にしようとする主旨は、スタッフのみんなにもちゃんと伝えられ支援に活かされてきたと思います。正直言うと、開設当初はこんな施設で事故のないように管理できるのかと不安なところがたくさんありました。サンガーデンオープンは、自分の気持ちの中では消化されないままの見切り発車でした。しかし、障害があるからということ制限され管理された生き方が自分たちの目指す仕事で良いのかと反発する思いもありました。夜中の散歩や買い物、眠れない入居者のゆりかごがわりの深夜ドライブ等々、そんなスタッフのひたむきな努力があつてこそ、居心地の良い施設になってきたと思います。

### 3 入所施設の役割の大きさを感じる（法人事務長／H. S）

まずは、スタッフの皆様へ「一年間、大変お疲れさまでした」。また家族の皆様には、「色々のご協力をいただきましてありがとうございます」。振り返れば、サンガーデンが開所した十五年度というのは、措置費制度から支援費制度へと制度が大きく変わった上、施設としては四月より、デイサービス二ヶ所、八月には入所施設が開所し、既存のゆたかの里に加え、四つの施設を一体として運営することとなり、スタッフの頭を悩ませることの多い年でした。しかし、運営上や支援面に問題が生じるたびにスタッフみんなで話し合い、一つ一つ解決していったことや、サンガーデンの利用者の方々と共に暮らすことで、多くのことを学び、スタッフ一人ひとりが、またスタッフ集団として大きく成長できた一年間だったのではないのでしょうか。また四つの施設を一体として運営することで、サンガーデンの入居者にとっては、日中の活動と夜の生活を分離することができ、日中の活動においては、選択の幅が広がったという利点も大きかったと思います。また、その反面、運営の複雑なところから、連絡上のミスがあつたり、きめ細かな個別対応が思うようにできず、行き届かない面が多々あつたのではないかと思います。これからまた、一つ一つの問題を解決し、利用者の生活が充実できるようスタッフ一同力を合わせて頑張っていきたいと思います。施設から地域生活への流れの中ではありますが、サンガーデンの入居者の方々の生き生きとした姿や、楽しんで生活している様子を見るにつけ、またショートステイのニーズからも、現在の社会的支援体制における入所施設の役割の大きさを感じているところです。

### 4 友達のような雰囲気施設に（デイゆたか施設長／T. D）

「一年を振り返ってどう？」と尋ねられると、毎日が慌ただしく、毎日が変化に富んでいた一年間だったという答えになります。以前、入所施設に勤務していたことがありましたが、職域が違っているということや、入所される入居者の半数が新しい顔ぶれということもあり心配と不安でいっぱいのままスタートしたのは確かだと思います。宿直に入って寝れない日が続いたり、一睡もできなかったことも多々あり、思い出のひとつにもなっています。時が経つにつれ、入居者の行動も少しずつ把握でき、コミュニケーションも図れるようになるにつれて、徐々に不安や心配も薄れてきました。入居者の方だけではなく、サンガーデンが建ったことにより新しいスタッフとも出逢うことができました。徐々に軌道に乗りつつあるサンガーデン鞍手を、今後は、若いスタッフたちと一緒に入居者の人たちと友達のような関係の楽しい雰囲気の施設が作れば良いなあと思っています。最後に一言、宿泊の時、私を何故寝せてくれないの？とあなたに問いか

けま～す。な・ん・て

## 5 みんなと何しようかな？（ゆたか工房施設長／K. M）

私にとって、サンガーデンがオープンしてからこの一年は、正直あつという間でした。初めての入所施設の経験に、これからみんなは慣れてくれるのか？私は何をしたらいいのか分からず、不安と心配で泊まりの初日を迎えたことを思い出します。その不安も初日だけで、今の私にとっての泊まりは、今日はみんなと何をしようかな？とか、今日の夕飯は何か？とか、今日は誰と寝ようかな？と、私もサンガーデンで生活しているようにみんなと楽しんでいるのが正直なところです。今は子どもが小さいので、以前より泊まる回数が減り、寂しいなと思っています。あと数年すれば、子どもの手も離れていくので、またみんなと楽しくサンガーデンで生活したいと思います。

## 6 受容的態度で接してきた成果（主任支援員／M. T）

一年前、サンガーデン鞍手が開設しました。それにともない、私たちスタッフの業務も色々な面で変化が出てきました。まず、宿直勤務があること。サンガーデンが開設されるまで宿直勤務にはかなり抵抗がありました。それもこの一年でだいぶ慣れてきました。開設当初よりは気分的に楽になっています。また、サンガーデン開設にともない多くの新しい利用者が入所してきたのも私たちにとって大きな変化だったと思います。それにともない、日中作業や行事にもスタッフの負担が増えてきたのではないかと思います。入所の利用者は、通所の人と比べて、親元を離れて生活しているという大きな違いがあります。それだけに情緒面の不安定さを持っている人が多いようです。これに対して、スタッフはできる限りありのままの本人を受容するという姿勢でのぞまなければならないと思います。この一年、受容的態度で入居者に接してきた成果が出てきて、少しずつですが入居者は安定してきているようです。情緒の安定以外にも、自立支援や健康管理など、スタッフの役割はたくさんあり大変です。その大変な中での業務をこなすことによって、スタッフはこの一年で一人ひとりかなり力量をつけてきたのではないかと思います。これからも、入居者、スタッフ、一緒に成長していければいいです。

## 7 「これでよいのか」と不安な一年（看護師／Y. K）

私がゆたか福祉会に入職して一年がちょうど過ぎました。この施設で看護師として何ができるのか、今でもわからないことばかりで、スタッフの皆さんに迷惑をかけています。看護師は一人ですが、何事も他のスタッフの協力が不可欠なのだ実感しています。また、日頃より所員の方々に接しているスタッフの皆さんからの情報等の収集を助けてもらっています。無力な私ですが、頑張らねばと思います。障害のある方と向き合うことは、直接的には初心者の私でしたから、何から手をつけてよいかわからず、入居者の方々に接して、いつも「これでよいのか」と不安な一年でした。障害は「パーソナリティ」だと、しかし、社会と融合していくためには私のような接し方ではだめなんじゃないか、私はいつの間にか、所員の方々を自分の子どものような錯覚をしていて社会人としての感覚を忘れてしまうときがあり、いつも反省させられます。看護師の私ですが、ちゃんと障害を理解していくため、勉強していかなくてはいけないと思っています。その上で、サンガーデン鞍手での看護業務を確立していきたいと思っています。

## 8 一周年という道標は大きいか（支援員／H. S）

まず、私たちスタッフに活動の場を与えて下さった方々、そのためにお力添えを下さった方々、そして、私たちが信頼し当施設を選んで下さった入居者とご家族の方々に感謝したいと思います。思うに「サンガーデン鞍手」開設の主旨に親亡き後の問題と共に、地域福祉推進の核となるという目的が謳われていました。一年間を振り返ると、それらの目標を思い返す暇もなく、ただ慌ただしく日々が過ぎていった感を強く持ちます。さて、一周年という道標は大きなものなのか、それとも長い道程の中のほんの端緒にすぎないのか、それは、今後の私たちの日々の活動の積み重ねに係っていると思います。「地域の中で尊厳を持ちながら、様々な人たちが共に支え合い生活する」というノーマライゼーションは、今日では「共生」という言葉で表現され、社会の様々な分野で使用されるようになりました。今後は、私たちの専門性もより深いものが要求されてくるようになると思われます。「サンガーデン鞍手」での日々の実践の努力の積み重ねによって、この一周年という道標はとても大きなものになるのではないかと考えます。

## 9 最強ペアが最弱ペアに?!（支援員／B. Y）

過去には宿泊体験等で少しは夜間の経験はあったが、未経験の入所施設勤務、内心不安でイッパイだった。毎日が、あっという間に過ぎ、入居者とのコミュニケーションも多く図れるようになり、今では少し楽しい「泊まりの日」。ただ、一年間というまだ短い間に何度眠れない日があったらう。一番辛かったのは、真冬に医務室で入居者の方と寝たことでしょうかねえー。最強ペアスタッフ（自称）と思い臨んだ宿泊が、フタを開けると「何じゃこりゃあー」。パニック連発。不眠者続出の最弱ペアに「大変身」。その結果、自分が入居者の方と一緒に医務室で寝ることになり、かなり不安な一夜を過ごしたことが今までで一番辛かったことですかねえー。今となっては良い思い出?!これからもたくさん辛いことや楽しいことがあると思います。今後も元気に入居者の方に体でぶつかって行きたいと思います。

## 10 今後は入居者の生活の幅を拡げたい（ジョブコーチ／F. Y）

とりわけ一年を意識して取り組んできたわけでもなく、気がつけば一年経ったという感じです。私自身の率直な感想としては、ケガなく一周年を迎えることができ、正直ホッとしたという感じです。スタート時においては、ハード面、ソフト面を含めた意味で宿直業務をうまく遂行することができるか不安でしたが、やってみると何とかなるもんだなあと思える反面、個々の入居者の性格や特性をつかむのに苦労したり、障害分野における専門的な知識の必要性も痛感させられました。現在、入居者は随分とサンガーデン鞍手の環境に慣れてきたように思います。私自身、それなりに個々の性格や特性を把握できるようになり、スタート時に比べると、入居者同様に落ち着いて仕事ができるようになったのかなと思っています。個人的にはこれから先、今の生活を基本にし、私自身も楽しみながら、入居者の生活の幅を拡げていけたらいいなと思っています。またその一方で、現在の福祉の流れにおいて、今後のサンガーデン鞍手のあり方を考えていくことも業務の一つだと思っています。「施設から地域へ」、この意味合いがどこまでの範囲を指すかわかりませんが、施設ありきで考えた場合、サンガーデン鞍手が施設でない施設を目指して、地域との共生に近づけていけたらと思っています。話が随分それたように感じますが、次は二周年です。今度は意識して取り組んでいきたいと思っています（笑）。今後も皆さんにはご迷惑をおかけしますが、よろしく願います。

## 11 次のステップを見つけよう（支援員／S. C）

サンガーデン鞍手が開設し早いもので一年が経とうとしている。従来の入所施設とは違い、閉鎖的ではなく、より家庭的に近い施設。リビングがあり、キッチンがあり、冷蔵庫があり、入居者にとっては家庭で過ごす感覚とあまり変わりなく落ち着いて過ごせる居心地の良い環境ではないだろうか。入居者と我々スタッフとの距離もこの一年で随分縮まって信頼関係が生まれたのではないかと思う。なかなか個性的な入居者が多く、スタッフも振り回されることが多かったが、宿直を重ねるにつれ、それぞれの入居者に対する愛情みたいなものが生まれ、寝顔やいびきをかいて気持ちよさそうに眠る姿を見て癒されもする。支援しているだけではなく、我々も彼らからお金では得ることができない大切な何かをたくさん得ているような気がする。サンガーデンでの生活に入居者も慣れ、落ち着いて過ごせるようになってきている今、次のステップは何かを見つけていかなければならない気がする。今後どういった施設に発展させていくのか、どういったことを取り入れて、どういった取り組みを行っていくのか、スタッフのチームワークのもと、入居者が楽しく過ごせるように初心を忘れず、サービスの向上に努めていきたい。

## 12 脱施設化でもサンガーデンはこのまま残っておかしくない(支援員／S. M)

「サンガーデン鞍手」が開設され、早いもので一年が経ちました。開所の時期に一スタッフとして私も現場に居合わせられたことをとても嬉しく思います。いろいろな意味で本当に貴重な体験をさせていただきました。また、入所施設の大変さを嫌というほど知らされました。入所施設初体験の私は、初めての宿直では緊張してほとんど眠れず、人生初めて二十四時間起きてみたりしたこともありました。そして、今までで一番印象に残っている出来事は、「真夜中の布団丸洗い事件」です。水を含んだ布団を洗濯機から取り出すのは非常に重くとても困難なものでした。濡れた布団を背中に担いで外に干しに行ったのがとても印象深く残っていて忘れられません。その他にも一人ひとりにたくさんの思い出がありますが、みんなそれぞれの夜の生活が観られ、みんなのことをもっとよく知ることができたりといった利点もありました。金曜日の宿直では、宿泊者と一緒に夕食の買い出しや調理をするなど、以前『YOUYOU館』でしていた「宿泊体験」のようでとても楽しんでます。今、世間は脱施設化の時代かもしれませんが、私は、「サンガーデン鞍手」はこのまま残っていてもおかしくはないと思っています。日中は地域に出て活動し、週末帰宅で親子のコミュニケーションもとれることはいいことだと思います。最後に、この一年を振り返って、スタッフ全員の協力があって今の環境になったものだと思います。今後もよりよい環境で入居者の皆さんが生活できるよう支援できていけるように努力していきたいと思っています。

## 13 宿直を重ねるたびに心に余裕が(支援員／Y. N)

サンガーデン鞍手が、無事開設一周年を迎えることができました。入居者の皆さんが大きな病気や怪我もなく一年間を過ごすことができ、ほっと一安心というのが今の正直な気持ちです。この一年を振り返れば、開所ぎりぎりまでの準備、開所後も皆手探りの運営で、慌ただしい日々でした。私自身は就職して一年が経ち、やっと仕事にも慣れた頃に入所施設の仕事に加わりとても不安だったことを思い出します。入居者の皆さんも、新しい環境と知らない人たちに囲まれて不安な毎日だったと思います。開所当初はパニック等への対応がうまくできなかつたり、相手の気持ちが分からなかつたりして「私に続けられるのか」と考えたこともありました。しかし宿直を重ねる毎に、昼間は見ることもできない入居者のいろいろな表情を見て少しずつ

つ不安は減り、心に余裕が生まれました。そんな気持ちで支援をしていると相手も自然に気持ちを伝えてくれるようになった気がします。入居者の皆さんが支援者の心を敏感に感じ取っていることを今後も忘れずにいたいと思います。最後に、サンガーデンもまだ一周年です。これからも入居者の皆さんが楽しく過ごせるように、そして地域での生活に向けて、気負わず焦らず支援していこうと思っています。

#### **14 問題には入居者第一で対処（支援員／N. M）**

ノーマライゼーションの理念に基づき「サンガーデン鞍手」がオープンして一年を迎える。入居者の皆さんの精神的・身体的負担を考慮して、宿泊回数を徐々に増やしていく方法は、入居者の皆さんはもちろん、支援させていただく私たち支援員にとっても、一人ひとりの特性を理解していく良い方法であった。平成十六年一月より各棟全員の宿泊となり家庭とは異なる環境の変化により不安定になる入居者の方もいたが、何か問題が発生するとスタッフみんなの意見を聞きながら入居者第一に考え対処してきた。施設長の運営方針と、支援員補助の方、宿直専門員の方、栄養士や調理員、事務の協力と、保護者の皆様の理解と協力、そして何よりも入居者の皆さんの「サンガーデン鞍手」に馴染もうとする前向きな姿勢で、無事に一周年を迎えることに感謝したい。しかしながら、現状に満足することなく、日々の雑事に追われながらも、サービス提供者の一員として入居者の皆さんのニーズに応えられるべく、高い志を持って自立生活支援を充実させていきたいと考える。

#### **15 大雪の日に二日連続宿泊！（支援員／A. S）**

昨年八月から、サンガーデン鞍手が始まり、入居者の方やスタッフ等、あっという間に増えていった。最初の宿泊の時、二、三人の方が宿泊をし、それに対し職員一人と保護者の方が泊まるという形式でスタートした。今にして思えば、遙か昔に思えるように時の過ぎるのが早かった気がする。まず初めに戸惑ったのが、八月から利用される方がどのような方なのかの把握だった。お互いが慣れるまでかなり時間がかかったのではないと思う。当時は毎日が精一杯であった。入浴しても、お風呂好きな方やすぐにお風呂から上がる方、ボディシャンプーを使う方や石鹸しか使わない方、手剃りの髭剃りしか使わず、電気の髭剃りは使わない方など様々な方が利用されているので、みんなが不満のないように時間配分を工夫したりして、できるだけ快適に生活できるよう心がけた。まだ一年しか経っていないのだが、この一年での思い出は、クリスマスイブの日に宿直担当になり、みんなと楽しく過ごしたことや、大雪の日に二日連続宿泊したことが印象深い。私自身、この一年で入居者の方にどれくらいのことのできたのか振り返ると反省すべき点は多々ある。だが、入居者の方や保護者の方に支えられ、意見や要望に対して素直に耳を傾け、これからも努力していきたい。

#### **16 第二の家庭になればいいなと思う（支援員／T. S）**

サンガーデン鞍手ができて一年の月日がたち、自分として本当にあっという間に過ぎていった一年だと思っています。今思えばいろんなできごとがありました。最初の頃は入居者にとっても不安があつてなかなか慣れない環境に戸惑っていたに違いないと思います。入居者の宿泊回数も次第に増えていく中、宿直スタッフにとっても初めての経験で落ち着かなく忙しく過ぎていきました。そういったやりとりを経験しながら、共に楽しさを見つけて支援していき、自分にとってもいろいろ勉強させていただいたように思います。入居者の方が落ち着いて過ごせる生活をどういうふう提供していかなければならないのか、通所施設と違った環境

で、入所施設では日常生活全般を支援していかないといけません。家庭から施設への移行は今まで家庭で育った環境に近づけるようにと、いろんな取り組みやスタッフ同士での情報交換により、入居者にとって第二の家庭となればよいと思います。今では入居者の方とのコミュニケーションもとれ、安定した生活が過ごせているように思います。これからは、一緒に生活しながらも、改善しなくてはいけないところを見つけ、早急にできることは改善していき、早急にできないことは徐々に改善していくことをスタッフが一致団結して取り組んでいきたいと思っています。

## 17 明けの日はぐったり(支援員／Y. Y)

昨年の四月より働かせていただくようになって、多くの利用者の方と慣れない仕事に四苦八苦している頃にサンガーデンのオープンがありました。オープン前より、備品の買い物や宿直ローテーションを会議でシュミレーションしていた頃が、今ではずっと前のことのように感じます。私自身、食事介助や入浴介助など初めてづくしのことが多く、毎回緊張と多くの戸惑いで、宿直明けの日はぐったりしていました。当初、入居者の方はもちろんのこと、スタッフも本当に慣れるのだろうか、とても不安でした。しかし、入居者の方が全員泊まるようになるまで数ヶ月あり、その間にお互いが徐々に慣れていったように思います。まだまだ未熟者の私ですが、入居者のサポートをこれからも日々研鑽していきたいと思っています。

## 18 スタッフ一丸で頑張ってきた成果(支援員／S. T)

サンガーデン鞍手が開設し、早一年が経ちました。よりよい施設生活のために様々な試行錯誤を重ね、本当にあつという間に駆け抜けた一年だったかなと思います。私は、昨年就職したばかりで、サンガーデンでの仕事は「どうなるんだろう？」という楽しみの期待と不安の気持ちが入り混じってのスタートでした。少人数の宿泊から始まり、私も宿泊の回数を重ねていくうちに、入居者の皆さんの昼間の作業中とはまた違った一面をたくさん見ることができました。音楽を聴くことが好きだったり、絵が得意だったり、又朝起きるのが苦手だったり(私もそうですが…)。テレビを楽しみにしていたり、中にはこだわりを持った方もおられるので、どう対応していくか、入居者それぞれの生活スタイルがわかるようになるまで大変なことも多々ありました。でも、サンガーデンでの生活を通して、入居者の様々な顔を見ることができ新たな個性を発見できた嬉しく思っています。その意味での楽しさも味わうことができました。開設一周年を迎え、サンガーデンの生活もだんだんと落ち着いたものになったと思います。が、ここまで来るには何度も試行錯誤を重ね、話し合いを持ち、スタッフが一丸となって頑張ってきた成果ではないかなと思います。現在より、よりよい生活の提供のために改善点はまだまだ残っていることでしょう。私もスタッフの一人として、入居者の方たちが自分の家とまではいかななくても、それに近く居心地良い生活を営んでもらえるように、これからも支援を続けていきたいと思っています。向上心を常に心に持って!!

## 19 宿直、結構楽しんでた(支援員／A. Y)

サンガーデンも早いもので一年が経ち、入居者の皆さんも暮らしに慣れてきたようです。最初は、「サンガーデンとゆたかを兼ねて、これから大変になるだろう」と思っていました。ゆたかからサンガーデンまでの移動手段や、宿直明けの事業部体制、入居者の薬の管理、色々な課題をスタッフの皆さんとクリアして入居者の皆さんにとって住み心地の良い「サンガーデン鞍手」になりつつあるのではないかなと思う今日この頃



です。宿直も最初は要領も悪く大変だったような気がします。私はそれでも結構楽しんでやってこれたような気がします。「今度はいつ泊まるの？」と入居者の方に言われると、つい嬉しくなりますね。宿直は、月に四回ぐらい回ってきますが、入居者の皆さんの元気な顔を見るのが楽しみです。これからもっと入居者の皆さんが快適に過ごせるように私たちスタッフは考えていきたいと思っています。

## 20 信頼関係ができたから（支援員／Y. N）

私は、サンガーデンが開設されるにあたり、通所時には見られない、入居者の方の生活に私たちスタッフが関わりを持つことで、安心してサンガーデンでの生活を送っていただけたらという願いがありました。入居者の方は、サンガーデンでの生活を始めるにあたっては、大きな不安や戸惑い、楽しみなど数え切れない程の想いを抱えていたのではないのでしょうか。開設時から一年を振り返ってみると、入居者の方の緊張していた姿よりも、笑顔や笑い声が聞けるようになってきたのではないかと感じています。それは、入居者の方とコミュニケーションを取りながら、毎日の生活の中での信頼関係ができてきたからではないのでしょうか。これからのサンガーデンでの生活が、入居者の方にとって安らげる場所であってほしいと願っています。

## 21 和気あいあいとした生活を（支援員／N. M）

早いもので「サンガーデン鞍手」が開設して一年が経ちました。同じく、私も鞍手ゆたかの里に勤めだし、一年が過ぎました。日中の作業とは全く異なることや、勤めだしたばかりということもあり、右も左もわからず右往左往していたような気がします。私が新人であり、その上ゆたかの里作業場で作業しないため、まずは私の名前を覚えてもらうこと、コミュニケーションをしっかりと行こうと思いました。そして、コミュニケーションを取ることがとても難しいことだと実感しました。入居者の方々が何を訴えているのか、考えているのか、自分ではわかったつもりで動いていてもパニックになってしまったり…。何でだろう？と毎日考えていたような気がします。入居者がいるからと、大雪の中通勤したり、振り返るといろいろ大変なこともありました。楽しいこともたくさんあったように思います。この楽しさを励みに、もっと私も入居者の方々も、和気あいあいとした生活を送れるようにコミュニケーションを取ることが心掛けていきたいと思っています。入居者の方々が「サンガーデン鞍手に入所してよかった、楽しいところだ」と言われるような施設になるように、これからも頑張っていきたいと思っています。

## 22 当施設が先進的であるところ（支援員／I. M）

昨年八月に鞍手ゆたか福祉会初めての入所施設「サンガーデン鞍手」をオープンさせました。開所から一年間、私たちが取り組んできた支援体制の一部を紹介したいと思います。当施設が先進的であると思われるところは、入居者一人ひとりのデータを集め、彼らが暮らしやすい環境を作っていく努力をしているところにあると思います。パニックや障害への対応は、一つひとつのケースを丁寧に積み上げてきた過程があるからこそ、発生したケースに応じて臨機応変に対応できる体制が作られたと思います。物事が起こってからその都度対処するのではなく、あらかじめマニュアル（パニック等への対処法）を作ったことがいざというときに動きやすい体制を作ったのだと思います。当施設は決して完璧なものではないですが、基礎となる形を見つけたことで、今後更なる充実・発展に向けた新しい取り組みが可能になると思います。他施設の真似できるところは真似して、入所施設の参考となるような施設を作っていきたいと思っています。

## 23 何も起こらないでと祈り宿直（支援員／I. H）

私は、サンガーデン鞍手開設の一ヶ月後に入職させていただいたため、開設に至るまでの経過をほとんど知りませんが、大変なご苦労があったと思います。私は、福祉の世界へ右も左もわからない状態で入り、入居者の名前すらもうる覚えの状態です。宿直に入っていたため、私と宿直に入った方には、大変なご迷惑をかけたと思います。宿泊の人数も増え、一人で宿直に入るときはとて不安で、とにかく何も起こらないでくれと祈りながら何度も居室を見て回り朝を迎えていました。私自身がそのような状態であったため、入居者の方々にご迷惑をかけていたと思います。しかし今では、正直きつくて不安なときもありますが、楽しんでさせてもらっています。今後は、私自身のレベルアップを目指し、サンガーデン鞍手がより良くなるためにはどうしたらよいかを考え、少しでも力になれるよう頑張っていきたいと思っています。そして、今まで通り楽しんでいきたいと思っています。

## 24 行動障害も減少傾向（支援員／O. S）

あたりまえの暮らしを目指して、普通に生活を送れる、開かれた囲いのない「サンガーデン鞍手」が開設一周年…。言葉では簡単に言えるものなのですが、本当に大変な一年でした。いや、私は半年ですが…（昨年十二月入職）。施設長を中心に、家族会、サンガーデンを温かく見守って下さっている支援者の方々、スタッフの皆さん、本当に一年間お疲れさまでした。私がサンガーデンの支援員として入った頃の入居者の方々は、言葉に言い表せないほど状態が悪い方ばかりでした。しかし、今はどうでしょう。入居者の方々は本当に変わられたと思います。実際、行動障害も減少傾向にあります。本当に皆さん、状態が良くなりました。これからも、施設長を中心に、家族会、支援者、スタッフ共々、サンガーデンを盛り上げて入居者の方々のあたりまえの暮らしを目指していきたいと思っています。

## 25 より強い信頼関係を（支援員／U. R）

私は、この仕事をするにあたって、最も大切なことは、入居者の方たちとより多くのコミュニケーションを取り、より多くの関わりを持つことにより信頼関係を築くことだと思います。私は、サンガーデン鞍手に入職してまだ月日はあまり経っていませんが、この数ヶ月の間にサンガーデンで丸一日入居者の方たちと過ごすことにより、通所施設で得られることよりもたくさんのご褒美を得ることができました。確かに夜眠れずに大変な思いをすることもありますが、日中の作業とは違った経験をすることができました。これから先は、この数ヶ月の間で得たことを十分に生かして、入居者の方たちがより生活しやすい環境を作っていきたいです。そして、より多くの関わりを持ってより強い信頼関係を築いていきたいと思っています。

## 26 伸び伸び生活に驚き！（M. M）

一年前といえば、私がサンガーデン鞍手に初めて実習生として宿直させていただいたことを思い出します。入所施設とは何をするにでも時間が決まっていて少し窮屈なイメージが自分の中にあっただけですが、サンガーデンでは食事以外の時間が全く決まっておらず、各自、自分の好きなことをして伸び伸びと生活しているので、正直、驚きとサンガーデンのような施設がもっとたくさんできたらいいなと思いました。今年の四月

からは、私もサンガーデン鞍手のスタッフの一員として、ショートの際は特に、入居者の方がもっと楽しめるようにカラオケやドライブ、買い物等、できるだけ入居者の方々の要望に添って行きたい場所に行っています。サンガーデン鞍手は入居者の方々だけではなく、スタッフも一緒に楽しめる一種のコミュニケーションの場所だと感じています。

## 27 自分の目指す福祉にぴったりの場所（支援員／I. T）

サンガーデン鞍手、一周年おめでとうございます。私はまだ勤務して四ヶ月程度で、やっと最近慣れてきたところです。県外から引っ越してきて不安もありましたが、所員の皆さんやスタッフの皆さんから温かく迎えていただき、楽しく毎日働けることを心から感謝しているところです。一年前は、県外の通所授産施設に勤めていましたが、その頃から、利用者の方へ生活支援のボランティアに関わる中で、「仕事だけの関係」ではなく、身近に生活にも関わって働きたいという思いがありました。自分のめざしている福祉の考えを含め、このサンガーデン鞍手はぴったりの場所でした。重度の方と接していくことも初めてで、最初は不安もありました。しかし、関わっていく中で、気持ちが通い合ったときの喜びは大きく、もっと本人の気持ちを理解できる支援者になりたいと思っています。今、入所施設は解体する動きがある中で、「サンガーデン鞍手」は、大きな役割があると思います。重度の方が安心して楽しく生活でき、地域とふれあいながら幸せに生きていく施設になっていければと思います。これからの福祉の流れである、子どもやお年寄りや障害者の方が、一緒に支え合っていく共生型の福祉をサンガーデン鞍手の中で実現できれば、地域の拠点にもなると思います。私自身、日々支援者として、当事者の方々から信頼されてお互いに社会の一員として共に明るい未来を築きたいと思っています。開設してまだ一歳となったばかりのサンガーデンがこの先大きな使命を持ってはばたいていくよう、一日一日を大切にしていきたいと思います。

## 28 おいしい家庭料理を（栄養士／M. M）

早いもので、サンガーデン鞍手が開所してあっという間に一年が経ちました。栄養士の私も、調理員の皆さんも入所施設での給食の仕事は初めてで、一からのスタートでした。朝、昼、夕の給食管理は自分で考えていた以上に大変なもので、特に献立作成においては、栄養価や料理内容、調理作業手順等を考えていると、なかなか献立が浮かばず苦労しました。この一年、失敗は数知れずで、落ち込んだり、自己嫌悪になったりしましたが、最近はやや軌道に乗ってきたように思います。私と共に暑いときも寒いときも日々汗を流して一緒に働いてくれている調理員の皆さんのがんばりがあったからこそだと思います。まだまだ改善を要していく点や、課題もたくさんありますが、これからも家庭的な雰囲気をもっとにして、おいしい家庭料理を利用者の皆さんに提供していきたいと思っていますので、今後もよろしくお願い致します。

## 29 ゆたかとサンガーデンの二重生活（ゆたかの里栄養士／H. T）

サンガーデンがオープンして一年。長いようで短かったような特別な日々の連続でした。過ぎてみれば一瞬ですが、その時は皆一生懸命だったと思います。スタッフの多くが初めて経験する入所施設。しかしその根底には、十数年ゆたかの里で培われた経験と実績があったからこそ、この一周年を迎えることができたのではないのでしょうか。人の生活パターンの中で、食の部分が占める割合は個人差はあるにしても、誰にも欠くことの出来ないものです。家庭に近い食事環境といいながらも多くの規制はつきものです。しかし、そ

の中でもいかに楽しく、おいしく、体によい食事を提供できるかがこれから先もずっと問われるところです。そしてもう一つ、食べることが大好きな人が多いだけに、避けて通れないのが健康管理。しかし、これはチームプレーで進めていかないと結果はでてこないなので、スタッフ全員で取り組んでいきたいと思っています。今後解決方法と、成果をお知らせすることができればいいなと思っています。私にとっては、ゆたかとサンガーデンの二重生活。しかし多くの所員の方にも、「ゆたかで昼食を作り、サンガーデンで夕食を作る」一風変わった勤務状況も理解してもらえているようです。夕食後、外はまだ明るいというのに、「おやすみ～。また明日ね～」という合い言葉が一日の終了です。それが明日の活力となり、また新しい一日のはじまりです。

### 30 最高の笑顔を毎日見たい（事務員／K. T）

改めて振り返ってみると、『あっ！』という間の一年間でした。私は、「サンガーデン」が開設して一ヶ月が過ぎた九月から勤めさせていただいています。第一印象は、とてもきれいで入所施設とは思えない建物で家庭的なところだと思いました。今まで一般企業でしか働いたことがない私にとって、何もかもが初めてのことばかりで不安でした。そして、「サンガーデン鞍手」に入所されている方も、ご家族の方も、一緒に暮らしている家族と別れ、住み慣れた家を離れ、入所しはじめた頃はとても不安な気持ちでいっぱいだったことと思います。この一年間、いろいろなことがありましたけど、今では、一人ひとり作業や居住棟での生活リズムもでき、充実した毎日を過ごしていることと思います。週末自宅に帰るときの笑顔は最高です。その最高の笑顔が毎日見られるよう、家庭的な「サンガーデン鞍手」でありたいと思います。そして、地域の方や友達が遊びに来て下さるようになっていったらいいなあとと思います。

### 31 安らぎと向上心を（宿直専門員／S. T）

今年一月より宿直専門員として週三日勤めています。初め不安もありましたが、今はだいぶ入居者の皆さんの特徴や性格を理解することができ、楽しく過ごしています。こちらの施設で仕事できることを大変嬉しく思います。入居者の皆さんに、安らぎと向上心が持てるように自分自身もっと勉強して頑張りたいと思います。

### 32 この仕事、とても勉強になります（宿直専門員／F. J）

私はサンガーデンに来てまだ半年足らずです。最初はこのような施設で自分が働けるかと不安がいっぱいでした。ヘルパーの免許しか持っていないのですが、それとは少し違った接し方だと思い、入居者一人ひとりの接触の仕方が違うということです。スタッフを見ていると入居者にとってもやさしく、怒ることもなく私なんか自分の子どもに対してはすぐに怒るような気がします。夕方三時半に出勤して、入居者と二時間ほどドライブに付き添っているところを毎日行きます。海に行って砂浜を散歩したり、貝殻を拾ったり、時には色々なところの公園に行き滑り台を滑ったり、乗物に乗ったりして入居者の方たちも楽しんでいるようです。また、バスの中では、お話しの好きな人はいつも会話をし話しかけてきます。それに対して、返事をしてあげるといったようなことをドライブ中にしています。そうすると、サンガーデンに着き、今度は食事の時間です。入居者は食事を楽しみにしています。時間をかけて食べる人、もう食べたのと思うような人、うろうろする人、お茶をいつも入れて回ったり人の世話ばかりして自分の食べるのがどうしても遅くなる人などなど…。部屋に戻ると入浴の時間です。手の空いている人から順番に入浴します。部屋では、好きなC

Dを聴いたり、絵を描いたり、パズルをしたり、ビーズをしたり、工作をしたり、散歩に行ったりと各自それぞれ楽しんでいきます。九時過ぎますとそろそろ寝る時間になります。一人ひとり自分の部屋に入っていきます。時々パニックも起こることがあります。このような仕事に就けて今はとても勉強になります。これからも入居者に負けないように体力をつけて一生懸命働いて役に立つようにしていきたいと思えます。

### 33 バニラエッセンス（介助員／W. M）

「おはようございま～す」、玄関の戸を開け、その大きな一声で一日の始まりとしてきました。最初はスタッフの「おはようございます」の声でしたが、最近はお話しが得意な方はお声をかけて下さり、お話しが苦手な方は髪を触っていただいたり、頬を撫でてくれたり、手を上げていただいたり、朝の挨拶だけでも千差万別ですが、その反応のあり方に月日の流れを感じます。誰が決めたことでもないのに、お部屋の中には役割分担ができて、お互いがお互いの邪魔にならないよう、自分のやれることを自然に自分たちでやっている…。掃除機をかけてくれる方、台所の洗いものをしてくれる方、靴を自分で履けない方に履かせてくれる方、ちょっぴり寂しくなった方の頭を撫でてくれる方。この一年、私は朝のわずかな時間しか関わりを持つことができませんでしたが、そのわずかな時間でも入居されている方々の変貌ぶりには目をみはるものがあります。それも入居されている方々の年齢差、各々の方が積み重ねられた経験ともち味が、このサンガーデンの生活の中で香りあるエッセンスになっているのではないのでしょうか。

### 34 おばちゃんと呼ばれて安心（介助員／A. H）

サンガーデン鞍手一周年おめでとうございます。二ヶ月研修を終え、八月一日より二号館女性棟に支援に入っています。一年が何事もなく無事に過ぎ、嬉しく思っております。朝早く時間が足りないほどあつという間に過ぎ去ります。施設長やスタッフの若い人たちの優しさの中で、入居者と一緒になり動き回る姿を見て大変なことと思ひ、頭が下がります。私たちも若い人たちと一緒に頑張っていこうと思ひます。入居者の人たちと一年が過ぎ、慣れてきて毎日の生活の中で勉強不足もありますが、一日大事です。私は、入居者の皆さんに対して、母親の気持ちで、厳しく優しく接して、おばちゃんと呼ばれて安心しています。また、怒ると「おばちゃん怒ってるの？」と顔を覗いてとてもやさしい人たちです。入居者の人たちと一緒にいるといろいろと心をうたれます。また入居者の人たちにとっては、先の長い遠い道です。一生懸命頑張っていくことを願っています。私も、住みやすい楽しく明るい生活のできることを願ひ、サンガーデン入居者と共に毎日元気で健康に過ごしていけることを願っています。

### 35 他で味わえない喜び（介助員／N. M）

振り返ってみますと、あつという間の、そして夢中で通り過ぎた一年の様に思えます。朝一番に見る寝起きの入居者の皆さんの顔が一年前には何となく不安気で落ち着かない（？）という感じだった様に思えるのですが、近頃ではお互いに慣れて安心した親しみのあるご挨拶ができるようになりました。はじめの頃は、「純な心に感動！」とただただ珍しさの感動だったのですが、だんだん一人ひとりの個性がわかってくるにつれ、対応の難しさ、大変さも身につまされる思ひです。時折発作を起こす人、感情が高ぶってか物を投げて壊す人、うんちを洗面所に詰り込んで排水パイプを詰りさせる人、大騒ぎして動き廻る人等々十人十色の行動ですが、個人的に向かい合って納得してもらったときの笑顔の純粹さに、他で味わうことのできない喜びと元

気もらっています。まだまだ勉強しながらのお付き合いです。皆様とずっと仲良くしたいです。

### 36 新たなスタート（介助員／S. M）

サンガーデン設立一周年、誠におめでとうございます。私事にとりましては救いの出来事でした。と言いますのは、幸か不幸か分かりませんが、三十五年もの永い年月、連れ添った相手との別れはつらいものがありました。それを埋めて下さったのが、回りのスタッフの方々の明るい笑顔と朝の挨拶が一番励みになり、また忘れさせてくれる有り難さ、それに、くったくの無いいつもの笑みを皆様にニコニコと与えてくれる入居者の皆様。こんな私にも近寄って来てくれてニコニコしながら話しかけて下さり本当に心が癒されました。言葉には、はっきりとは見えませんが、目や態度でほんの少しですけど、見える気がします。なんと言っても一番すごいことは、スタッフの方々のコミュニケーションと連係プレーにはいつも感動します。これからもサンガーデンが明るく、よりよく発展しますようお祈り致します。

### 37 おばちゃんパワーで（介助員／A. J）

サンガーデン設立一周年、誠におめでとうございます。素晴らしいことです。スタッフの皆さんについていくのが精一杯の一年でした。入居者の方々と、これからも楽しく家庭的な雰囲気を大切に、おばちゃんパワーで頑張ります。

### 38 入浴が済んだら紙芝居（介助員／K. S）

山と川と田んぼと、そして広い空が見える「サンガーデン鞍手」で働いて、二週間が経ちました。二号館の女性十名の方が通所の作業から帰って来られた四時からの仕事です。余暇活動や夕食、入浴、団らんのお手伝いをしています。四時でもまだ暑く、作業をして来られた皆さんがほっぺたを赤くして「ただいま～」と帰ってくるのを迎えています。広々とした明るい部屋で、皆さんが家族のように仲良くしているのを見ると、いいなあと思います。私はまだ本当に新米でわからないことや戸惑うことがあります。入居者の皆さんと一緒に頑張っています。今は、入浴が済んだ団らんの時に、リビングで紙芝居をしています。みんなでひとつの紙芝居を見て、楽しそうです。「また明日もして」「何の紙芝居？」って言われます。皆さんが夜休む前に紙芝居を見て喜んでもらえたら私も嬉しいです。これからも一生懸命やりますのでどうぞよろしくお願ひ致します。

### 39 自分なりに成長したよ（調理員／S. Y）

早いものでサンガーデンの調理員になり、一年が経ちます。最初の頃は、一勤の朝食作りはすっごく不安でした。特にお汁の水の量です。計量して入れても、具の量などで、多かたり少なかりして、毎回「あ～どうしよう」って常に思っていました。今でも、まだまだ、完璧とはいえませんが、自分なりに成長したよって思っています。皆さんの顔と名前を覚えるのも大変でした。声のかけ方や接し方なども、全くわかりませんでした。調理の方も落ち着いてきたので、少しずつ接し方など習っていこうと思います。これからも、皆さんから「おいしかったです」と言ってもらえるように、朝、昼、晩と頑張って食事を作っていきたいと思っています。

#### 40 優しい気遣いに感謝（調理員／Y. M）

この一年間は、あっという間に過ぎていきました。最初の頃、炊飯器のスイッチを入れ忘れて、ごはんが炊けていなかった失敗も昨日のことのようです。明るく楽しい人たちに囲まれて、楽しく仕事をさせていただいています。それに、入居者の人たちも優しく、私の手の届かない食器を、手の届くところまで移動させてくれて、「大丈夫？届く？入れてやろうか？」と気遣ってくれます。早出の時は、眠れなくて辛いときもありますが、皆さんのやさしさと「おいしかったよ」の一言で、頑張れています。これからも「おいしかったよ」って言ってもらえるように頑張りたいと思います。

#### 41 一勤は今も不安（調理員／K. K）

サンガーデンの調理の仕事を始めて一年が経ちますが、調理の仕事、入居者への接し方と、とても不安なものがありました。食事の量の多さ、衛生面、材料や器具の取り扱い方等、一つ一つとても大変なことに気づかされました。仕事は、一勤、二勤、三勤と、時間帯もそれぞれ異なり、一勤では朝の六時三十分から一人で食事の準備をする不安は一年経ってもなかなか取り除くことはできません。失敗もいろいろありますが、調理員の仲間にも助けられ、これからも皆さんに喜ばれるよう頑張っていきたいと思います。

#### 42 心の栄養のお礼に（調理員／F. J）

福祉施設関係で仕事をするのが初めてで、不安もありましたが、皆さんの力を借りながら四ヶ月が過ぎました。スタッフの皆さんの「粘り強い根気と優しさ」、入居者の方の「素直な心と笑顔」がとても印象的でした。私は、この間、皆さんからたくさん心の栄養をいただいたように思います。お礼においしい食事を作って、皆さんの「笑顔と元気」を食堂で待っています。これから先も、皆さんと一緒に頑張っていけたら幸いです。

#### 43 みんなと一緒に五年十年（調理員／M. H）

去年の八月一日から早一年。あっという間に一年間が過ぎてしまったみたいです。今では、だいぶ仕事にも慣れて順調!!にいてますが、最初の頃はいろいろな面で慣れるまでに時間がかかりました。私はサンガーデンに来るまで大量調理の経験など全くなく、「大丈夫かな？ちゃんと作れるだろうか？」と心配していましたが、仕事が始まると心配していたとおり、調味料の量を多く入れすぎて辛いスープを作ってしまったりと周りの人にいろいろとご迷惑をおかけしました。あとは、施設利用の皆さんの顔と名前が一致するまでも、ずいぶんと時間がかかりました。そうやって一年が過ぎていきました。今では、「今日の給食美味しかったよ」とたまに言われるのがとても嬉しいです。これからも頑張ってみんなと一緒に五年後、十年後を迎えていきたいです。